

社会的活動報告

「木づかい体験会」への参加

幼児教育学科 准教授 香月 拓

今年度、香月ゼミ・木下ゼミでは、福井県農林水産部 県産材活用課と連携し、ふくいの木を活用した「木づかい体験会」を実施しました。その概要は以下の通りです。

◆概要

将来的なふくいの木の利用者であり、これからの福井県を担っていく未就学児を対象に、本学の学生がこども園等を訪問し、ふくいの木で作られた遊具や玩具を通じた触れ合いの中で、ふくいの木の良いさを伝える取組み。

◆こども園での木づかい運動の実施内容

□ふくいの木を使用したカスタンネットづくりと音楽あそび (木下ゼミ)

全4回(仁愛短大附属幼稚園、愛星保育園、上野こども園、三心わくわく認定こども園)

□ふくいの木を使用した魚釣り玩具制作と森の紙芝居 (香月ゼミ)

全4回(仁愛短大附属幼稚園、青い鳥こども園、足羽東こども園、牧島保育園)

実施した園では、毎回熱心にやすりをかけたり、色を塗ったり、夢中で遊びこむ子どもたちの姿がありました。ある園の先生からは、後日メールにて「体験会の後、お部屋に戻ってからも、子ども達はさかな釣りをしたり木や森の図鑑をみたり、木のさかなにペイントしたり、水族館ごっこしたりと思いきいに遊んでいました。



夢中で遊ぶ姿から、午前中の活動が子ども達にとって楽しいものだったことが伝わってきました」と嬉しい報告をしていただきました。毎日、何かしら木の製品に触れていても、五感を通して木に触れることはないのも、そのような活動を次年度以降も継続していきたいと思えます。

また、香月ゼミの2名が制作した紙芝居「きこちゃんと木の妖精」が『ふくいの木づかいブック』の絵本になり、そのお披露目会が3月10日(水)に福井市の小鳩幼稚園で行われました。



最後に「木づかい体験会」に参加した学生の感想を掲載します。

- 木の良さを子どもに楽しく知ってもらうためには、どのような環境構成をすれば良いかを考えることが大変だったけど今後の役に立つと思う。
- 子どもたちの前で実際に何かをすることはなかなかできない体験であり、どのような関わりが必要になるのか理解することができた。
- 実際に園に行き、子どもに教える立場として活動できたことで、保育者としてのイメージを具体的にもつことができた。
- 子どもの前に立って活動するうえで、どうすれば楽しく聞いてくれるのか、楽しんでくれるのかを学ぶことができた。
- 木は身の周りになくさん使われており、これらの良さを知ることが日常生活のありがたみを知る良い機会となった。
- 触った感覚や匂いなどを通して自然を肌で感じる事ができた。